

平成9年度第2回・沖縄県及び本島地区若い漁業者 確保推進会議開催順

平成10年3月18日(水)
水産業改良普及所会議室

1. 所長あいさつ

2. 会議の進め方(進行) 事務局

3. 議 題

- 1) 平成9年度漁業生産の担い手確保・育成事業実施状況について 各担当職員
- 2) 平成10年度漁業生産の担い手確保・育成事業実施状況について 所 長
- 3) 平成9年度漁業士会活動状況及び101年度計画について 各支部担当者
- 4) 平成9年度漁村女性はつらっライフ事業実施状況について 金城主任専技
- 5) 平成10年度青壮年・女性交換大会及びシンポジウムの取り組みについて 事務局

4. その他

*平成9年度漁協青壮年部部長事務局会議開催(総括会議)報告 事務局

66式討議: テーマ『夢のある青壮年部活動を目指すには』

平成10年度 水産業改良普及事業実施スケジュール

神栖水産業改良普及所 TEL 098-994-4304 FAX 098-992-3142

項 目	概 要 等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備 考
1. 青年漁業者交換大会	漁村育世婦人活動実践発表大会 (県大会・全国大会)										県大会 水産会館		全国大会 東京	
2. 交流学習事業	A. シンポジウム コーディネーター (1名)、パネリスト (7名) 「水産業と海洋レジャーを考える」 B. ①観光漁業の取り組みについて ②赤土対策について										シボジウム		本 島	
3. 技術交流	①かつお餌料採捕の省力化された棒受網研修 (本部・今帰仁→鹿見島) ②シラヒゲウニの資源管理について (宜野座→今帰仁) ③バヤオ漁業技術 (宜野座→沖縄市) ④ソデイカ資源管理と流通加工 (伊良部→石垣)	①かつお餌料採捕の省力化された棒受網研修								②シラヒゲウニの資源管理について				平良・八重山 八重山
4. 新技術定着試験	①生産性なしによる魚類養殖試験 (与那味・糸満) ②シヤコガイ放流効果試験 (多良間村) ③魚類養殖の技術定着試験 (石垣市)													年 周 年 周 年 周
5. 技術改良試験	ヒシキの増養殖試験 (与那原漁協)													年 周
6. 青年交流事業	モズク料理普及 (平良市漁協婦人部等)													年 周
7. 担い手確保 総合推進事業	神栖県若い漁業者確保推進会議の開催 地区若い漁業者確保推進会議の開催 (本島10人、宮古5人、八重山6人)													年 周 年 周 年 周
8. 少年水産教室	①シヤコガイ放流体験学習 講師 桑正幸 ②定置網体験学習 講師 地元漁業士、専技	第1回												宮 古 宮 古 宮 古
9. 漁村女性活動支援事業 営漁指導計画	①サメの加工開発 ②魚類加工による特産品開発 ③岩漁船の記録について ④岩漁船による漁家経営分析	①サメの加工開発 ②魚類加工による特産品開発 ③岩漁船の記録について ④岩漁船による漁家経営分析												宮 古 宮 古 宮 古
10. 漁村高齢者活動支援事業	①能力活性化事業 シラヒゲウニの短期実入り講習会 ②能力活用実践事業 シラヒゲウニの短期実入り試験	①シラヒゲウニの短期実入り試験 ②シラヒゲウニの短期実入り講習会												具志川市 具志川市
11. 漁業士活用事業	①青年漁業士養成講座 ②漁業士認定 ③九州ブロック研修 (宮崎県) ④地域漁業等交流会 (北部→八重山) ⑤モズク種苗保存 (宮古→本部)	①青年漁業士養成講座 ②漁業士認定 ③九州ブロック研修 ④地域漁業等交流会 ⑤モズク種苗保存												普及所 那覇市 宮崎県
12. 普及職員研修強化事業	①魚類防疫士養成 (1人・東京) ②九州ブロック普及職員連絡会議 (熊本県)	①九州ブロック普及職員連絡会議												
13. 普及職員の研修	①普及職員行政研修 (1人・東京) ②専門技術員研修 (1人・静岡)	①普及職員行政研修 ②専門技術員研修												
14. 生産者会議	①モズク ②ヒトエダサ ③魚類養殖 ④漁船漁業等	①ヒトエダサ ③魚類養殖												本 島
15. 県普及業務連絡会議	普及業務の実施計画・進捗状況・成果の検討												第3回	

平成9年度漁業生産の担い手確保・育成事業実施状況

担当者：瀬底正武

課 題	実 施 時 期	実 施 場 所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	問題点及び今後の課題
1、青年漁業者等確保育成事業 1) 若い漁業者確保推進会議 開催（本島地区）	9年 9月26日	水産改良普及所	推進会議委員		■ 最近の沿岸漁業は、資源状況や漁環境の悪化等により生産が低迷し、漁業、漁村の活力の低下が見られる。これらの問題を地域の実情に即して解決しながら、若い意欲ある人材を確保・育成するとともに、活力ある漁村社会の形成等を図る目的で実施。 ◎第1回開催・・・議題 1) 平成10年度若い漁業者推進事業アンケート調査について 2) 平成9年度若い漁業者推進事業進捗状況について・中間報告 3) 平成9年度漁業士・九州沖縄地区ブロック会議について 4) 平成9年度漁村女性をつらつライフ事業実施状況・中間報告 5) 平成9年度青年・女性漁業者交換大会の取組について 6) その他、平成9年度漁協青年部部長事務局長会議について（66式討議「夢のある青年部活動を目指すには」） ◎第2回開催・・・議題 1) 平成9年度漁業生産の担手確保・育成事業実施状況報告 2) 平成10年度漁業生産の担手確保・育成事業実施計画 3) 平成9年度漁業士会活動状況及び10年度計画について 4) 平成9年度漁村女性をつらつライフ事業実施状況報告 5) 平成10年度青年・女性漁業者交換大会の取組について 6) その他、平成9年度漁協青年部部長事務局長会議開催報告	◇日程調整の再検討（台風時期を避ける） ◇学校行事等の再確認と調整
2) 沖縄県若い漁業者及び本島地区推進会議開催	10年 3月18日	水産改良普及所	推進会議委員			
3) 新規漁業者就業促進事業 ア、少年水産教室（本島） ◆定置網漁業体験学習	9年 7月23日	石川市漁協	石川市立宮森 小学校5、6年	石川市漁協・同市 役所・水産振興課	■ 水産に関する基礎的知識の習得と、伝統ある地域の漁業を理解させるとともに、児童生徒の健全育成を図る。開催に向けて準備万端整えていたにもかかわらず、台風9号の接近により延期する。その後、再度学校側と日程等検討した結果、同校は平成9年度研究発表に指定されているため、夏休みの開け以降に降下しなくなるの理由で、取りやめとなった。	
4) 青年漁業者育成事業 ア、青年・女性漁業者交換 大会開催	10年 1月16日	水産会館	漁業者・青年 婦人部・市町村	関係団体・関係機 関等	■ 漁村青年・女性漁業者及び研究グループ等の自主的な活動実績を発表し、相互の知識の交流、活動意欲の向上及び成果の普及を	

課 題	実 施 時 期	実 施 場 所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	問題点及び今後の課題
5) 交流学習事業 ア、技術交流会 ◆モズク浮流し養殖技術 交流会	平成9年 5月21日～ 23日	鹿児島県奄美大 島・奄美町漁協 「奄美農水産」 代表、前田博氏	伊平屋村漁協 モズク養殖生産 部会	奄美支庁農林水産 課・水政普及員	図ることにより、今後の漁村社会の発展に寄与することを目的に開催。平成9年度の発表者は、下記の通りです。 1、与那国で漁師として生きる 与那国漁協青年部・・・玉城正太郎 2、運天原地先におけるスギ養殖について 羽地漁協運天原魚類養殖グループ・・・仲宗根 真 3、女性漁業者としての漁業経営 嘉手納町漁業組合遊漁船乗組部・・・国吉康子 4、婦人部で取り組む特産品づくり 平良市漁協婦人部・・・友利恵子 審査の結果、青壮年の部では、与那国漁協青年部の玉城正太郎氏 女性の部では、嘉手納町漁業組合遊漁船乗組部の国吉康子氏が最優秀に輝いた。参加者170名	
イ、青壮年部長事務局長会議 (巡回移動相談開催)	9年 10月31日	水産改良普及所	漁協青壮年部	市町村・漁協	■奄美大島では、全浮動浮流しと半浮動浮流しの二方法で、前期、後期で使い分けている ■県下では、取り合えず後者に ついて、沖繩市、与那城町漁協で、11月から12月にかけて実施した。 ■1月26日の調査では、両漁協とも下記の結果（中間報告）であった。 ■クイ式にシンジ棒を結着するだけでは、両サイドの鉄鉤クイに網が絡んだりするため、もう一工夫検討する必要がある。	

課 題	実 施 時 期	実 施 場 所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	問題点及び今後の課題
2、漁業技術育成定着事業 技術改良試験	9年4月～5月 10年3、4月	与那原	漁協婦人部	市町村・漁協 水産試験場	■ポリザル設置による「ヒジキの増殖試験」別紙参照	
3、地域活動 ア、ヒトエグサ養殖生産者 会議開催	9年 7月31日	水産改良普及所	養殖生産者	漁 協	■年1回養殖生産者が一同に会し、養殖技術、流通、製品開発等について、意見交換を図りたく毎年開催されている。 ■本年度は、「製品開発と販売促進による儲かる漁業を目指す」をテーマに開催された。 ■会議は、各産地漁協の養殖状況について、代表者に報告してもらい。その後、養殖事例報告（実践課題に取り組んだ漁協）下記二課題について、発表してもらいその後、意見交換を行う。 1) 生育不良対策と漁場移動について 本部漁協・・・・天久三男（備前崎養殖所代表） 2) 囲い網による雄雌対策と製品開発の取組について 北中城漁業組合長・・・・古堅宗仁 ■参加者は、5漁協、17名参加 その他、県漁連・関係市町村等	■平成9年度協議事項 次年度から、2～3年間で実施すること決定。 養殖状況等調査の上事務局が必要と認めたときに実施する
イ、平成9年度モズク種苗 配布状況	9年 7月～10月		養殖生産部会		■2月～3月にかけて、糸状体を寒天分離し増殖した。配布先は下記の通り。 7月18日；糸状体・・・5リッター勝連漁協 10月13日；糸状体・・・10リッター奥武 試験用 7月24日；糸状体・・・5リッター直野座漁協 10月15日；糸状体・・・20リッター沖繩市漁協 8月27日；糸状体・・・4リッター与那城漁協 10月16日；糸状体・・・20リッター奥武 試験用 8月27日；糸状体・・・2リッター知念漁協 10月20日；糸状体・・・10リッター糸満 試験用 8月28日；糸状体・・・4リッター津堅支部 10月27日；糸状体・・・4リッター志喜屋グループ 8月30日；糸状体・・・2リッター伊平屋漁協 計＝61リッター 9月10日；糸状体・・・2リッター久米島漁協 9月30日；糸状体・・・3リッター志喜屋グループ ■寒天培地の作り方、取り扱いに関する注 10月3日；糸状体・・・2リッター久米島グループ 意事項等作成し、関係漁協にFAXで情 10月6日；糸状体・・・2リッター知念グループ 報提供する。（15漁協） 10月10日；糸状体・・・2リッター津堅支部	

課 題	実 施 時 期	実 施 場 所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	問題点及び今後の課題
ヒジキの増養流試験 (技術改良試験)	9年4月～5月 10年3月～ 4月	与那原	漁協婦人部	市町村・漁協	◎方法 「ふらし式ポリザル法」で、3地点 (A地点に4籠、B地点に4籠、C地点に2籠) に設置した。 設置は、10Cmの鉄筋クイを使用し、クイと籠との連結はステン製の鎖を使用した。設置後数時間の間に上げ潮時の静かな波浪にもかかわらず3籠とも流失した。 今回は、30Cmの鉄筋クイに取り替えて試みる。 ポリザル中央部の金具が持ち応えきれず、1籠流失と散々な目に合う。結局、中央の金具を取り外し、直接ベニヤ板とポリザルとを直結したため流失が避けられた。方法が見えて来た。 「固定式ポリザル法」は、ふらし式と強度、籠の散布状況等比較のため実施した。方法は、マノール急結利によるポリザル設置。A地点に1籠、B地点に2籠設置した。 ◎経過 5月17日～20日にかけて、ポリザルへの母藻の入れ替え作業。成熟藻体を見分けるためにルーベを使用した。生殖器官である生殖孔の周りには、大凡4個体程度の受精卵が形成される。ルーベで見える限り雌の生殖器は、短くふくらみ雄は長く細い、この時点で9割以上が卵放出後であった。 10月30日、5ヶ月経過後の発芽生育状況は、台風19号の影響を諒に受けたのにもかかわらず、何個体かの発芽が確認された。発芽個体の分散は、2.7m～3mの範囲内であった。ただ、天然個体の特定は難しいがポリザル周辺は、設置前に「高圧ポンプにより磯掃除」徹底的に行った。新芽4mm～10mm 12月30日、天然藻50cm～70cm前後と潮干帯下部の非常に狭い範囲内での生育が顕著である。相変わらずポリザル周辺の生育が非常に悪い。20mm～50mm程度 1月28日、生育に変化無し。	第2回目を10年3月、4月にかけて実施検討。 成熟度調査を継続的に行う。 ふらし式・固定式による籠の散布状況と潮汐の関係を調査 ※これまでの中間報告を踏まえ、増殖方法の検討。 1、ポリザル方式の場合の利点、欠点について 2、新たな方法として、別紙の通り、岩盤増殖による壁面増殖の利点、欠点 3、同上は、構造改善事業導入による、試験事業で対応可能 (コンボウをリース) 4、養殖への展開については水産試験場との共同テーマの中で検討する。

課 題	実 施 時 期	実 施 場 所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	問題点及び今後の課題
1. 漁業技術開発調査 (サヨリ2そう曳)	3月27日~28日	伊江島沿岸	漁業士 勝連漁協津堅青壮 年部	伊江漁協	漁業士育成活用事業としてサヨリ2そう曳漁業を11月に予 定していたが、着工が延期という事で3月下旬に変更した。 鹿児島からサヨリ漁具一式の購入手続は終えているので、 ホンサヨリ(カタギラー)を対象に、2隻で網を曳航し、捕 獲するための技術開発、調査の準備中である。	漁業士が中心となって実施 し、他漁協からの応援要望が あれば実施する。
2. 新技術定着試験(カゴ網)	3月30日~31日	本島北部西海域	伊江漁協底延縄漁 業者 青年部	伊江漁協	カマボコ型のカゴ網(ステンレス)は主に、レンコダイを 対象とした漁具であるが、多種多様な魚種が入網する。この 漁具は普及所、水試で試験操業を行ってきたが、経営面にお いて普及に至らなかった。既存のカゴ網は夜間に入網するこ とから、以前は昼間の試験操業であったので、今回は夜間操 業を実施し、有用魚種の入網を確認したい。	カゴ網の価格は1個5,000 円程なので、生産者が購入 可能かが問題である。このた め、漁具資材をネトロンZに するか今後の課題となる。
3. 漁村女性をつらつライフ事業	10月15日~18日	長崎県館浦漁協 〃 生月漁協	伊江漁協婦人部	長崎県田平水産業 改良普及所	地域海産物の利活用(特産品作り)による漁協婦人部の活 性化を図るため、伊江漁協婦人部5名(うち2名は婦人部負 担)を引伴し、長崎県の館浦漁協、生月漁協において、トビ ウオを原料とした練り製品の蒲焼、干物としての塩干品、ダ シ用として焼きアゴ加工等の技術研修を行った。その結果を 実践活動に移すため、地元蒲焼業者に依頼し、婦人部と共同 で実施するため準備中である。	1.漁協役員、婦人部及び青年 部を交え、研修報告並びに実 践活動報告を実施する。 2.生産者がどのように評価し 前向きに事業として進めてい くかが課題である。
4. 実践活動	3月23日	伊江村	伊江漁協婦人部	又吉カマボコ店 伊江漁協		
5. キンメ釣り漁業の技術研修	10月22日~24日	高知県室戸岬漁協	糸満漁業振興会	室戸岬漁協 長崎県室戸漁業指 導所	糸満漁業振興会からの依頼により、深海のキンメダイ釣り 漁業の実地研修のため室戸岬漁協へ同行した。室戸岬漁協の 沿岸船の水揚げはキンメダイが約50%を占めている。キンメ ダイ釣り漁法には、タル流しと手釣り(シヤクリ釣り)の漁 業がある。本県近海の水深300~700mにキンメダイは生息し ているが、これを対象とした漁業は行っていない。鹿児島船 が冬期に本県近海で底立延縄式で操業していることから、バ ヤオ及びソノデイカ漁業との複合経営を目指すために、漁場開 発を実施する必要がある。	糸満漁協活性化事業として 平成10年度事業で研修結果を 実践することになっており、 普及活動の一環として支援し たい。

担当者：多和田義周

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	問題点及び今後の課題
交流学習会 (魚類養殖)	10月	名護市	養殖グループ その他	水産振興課 果名連 羽地漁協	10/22 H9年度 交流学習会(名護市仲尾氷在、名護市役所羽地支所2階会議室：参加者81名 懇親会は47名) 内容としてはH8年度漁場保全対策推進事業の概要説明・魚類用人工配合飼料の概況について：日本農産工業(株) 四反田勝久氏・カサチマダの飼育管理と魚病対策について(株) カサチマダ-鹿屋営業所 所長野影一氏 天草営業所 田辺人氏にそれぞれ講演していただいた。その後同会場で懇親会を実施。	
漁業士認定事業	周年		各漁協組合員	市 協 漁 団 水 体	5月21日 漁業士候補者の推薦について、依頼文書を作成発送する 11月17～18日 H9年度青年漁業士研修講座を久米島漁協で実施する 青年漁業士候補の与座嘉雄氏と久米島漁協青壮年部 部長15名 に対し、金城主任専技(資源管理型漁業について) 糸数主任技師 (漁業権と漁業調整) 多和田(魚類養殖について) 瀬底主任専技 (海藻類の増養殖について) 多和田(海洋深層水について) 各演題について講義し、質疑応答後閉会した。 12月4日 平成9年度漁業士認定審査会(本庁9階第5会議室) 過半数以上の5名の委員の出席により、審査会を開催、漁業士認定 議題については上原佑強氏の名誉指導漁業士、与座嘉雄氏の青年 漁業士は全会一致で了承。漁業士辞退の議題についても与座国海協 小島寿和氏了承される。今後辞退者が出てくることを懸念される 漁業士としての優遇措置が必要と思われる。	普及所内で青年漁業士か ら指導漁業士・指導漁業士 から名誉指導漁業士への 昇任検討委員会作業部会を 編成し、審査会で審査吟味 の提案
普及だよりの発行	周年		水産関係者	水産振興課 宮古支庁 八重山支庁 水産団体 協 各 漁	1月16日に平成9年度 青壮年・女性交換大会(水産会館5階大ホール・参加者150名)において、漁業士2名(上原氏の名誉指導漁業士 与座氏の青年漁業士の認定証書授与が行われた。 平成9年度第37号をH9年6月25日に印刷、関係機関に配布郵送。 平成9年度第38号をH9年1月26日に印刷、関係機関に配布郵送。 平成9年度第39号をH10年2月末日現在原稿をとりまとめ中、3月下旬 には印刷し、関係機関に配布郵送する予定。	水産関係者・普及職員に 原稿依頼するも提出原稿が 非常に少ない。

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	問 題 点 及 び 今 後 の 課 題
第2回漁業士九州ブロック研修会	平成9年 8月21日	那覇市	漁業士	九州各県 市町村 漁協	平成9年8月21日(木) PM13:00～PM17:00 研修課題「各県漁業士活動状況及び予算」 平成9年8月22日(金) AM9:00～PM12:00 研修課題「地域活性化と漁協運動」(講演) 「漁協の活性化に向けた漁業士の実践方 向(パネルディスカッション)」 報告時間 各県10分	地元沖縄県側の漁業士の出席が 少なかった。
沖縄県漁業士会中南部支部 平成9年度事業実施状況	4月～5月	糸満市	漁業士	市町村 漁協	九州各県の報告終了後、質疑応答も活発に行われ、地域の漁業の課題やそれに対する取り組み等について意見交換が行われ、大変、有意義な研修会であった。本土側出席漁業士17名、県職員12名その他2名の計31名。沖縄県漁業士10名、県職員12名の計22名。沖縄県漁業士の会員40名のうちたったの10名参加とはさびしい思いがする。しかも、地元であり、開催県でもありながらである。しかし、会長、副会長はじめ出席した漁業士は頑張ってくれたので無事沖縄側の面子も立ち、成功のうちに終了した。	
平成10年度事業計画	4月～5月	糸満市	漁業士	市町村 漁協	1.中南部支部総会 2.制度資金説明会 3.沖縄県漁業士会役員会 4.漁業士九州ブロック研修会 5.中南部支部漁業士交流会 1.中南部支部総会 2.沖縄県漁業士会役員会 3.沖縄県漁業士会総会 4.沖縄県漁業士会交流会 5.中南部支部漁業士と中学生との意見交換会8月 6.中南部地区婦人部との意見交換会10月 7.他地域漁業士との意見交換会11月	

担当者：糸数 正

課 題	実 施 時 期	実 施 場 所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	問 題 点 及 び 今 後 の 課 題
交流学習事業 技術交流計画 ソデイカ漁業	3月20日	糸 満 市	北大東漁業者	金城専技	- これまで大東での本格的なソデイカの操業は行われていない。 - 現在は混獲されるソデイカを島内消費している。 1月に現地調査したところ漁法導入希望者が多い。 - 糸満等の漁業者が大東近海でかなり操業している。 - 現在の一本釣り（マグロ、サワラ、クロタチカマス）の操業では漁業収益の向上は難しい。 - 島内消費を対象とした漁業では操業時間が午前中に限定されるが、冷凍保存の効くソデイカなら一定量の保管後冷凍コンテナによる定期船での輸送ができるため操業時間の延長が可能になる。	- 漁船が小型であり他地区の漁法を若干改良する必要があると思われる。 - 漁獲後の処理、保存、輸送及び取引先等について検討を進めなければならない。

担当者：近藤 忍

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協力者	経過及び成果	門題点及び今後の課題
技術改良試験 ヒトエグサの 人工採苗試験	5月	普及所 本部駐在	ヒトエグサ 生産 漁業者		ヒトエグサの人工採苗試験を行うべく、5月上旬から同月下旬にかけて数回、ヒトエグサ母藻より接合子放出を試みた。 中城地先において採取したヒトエグサを一昼夜冷暗室で乾燥処理した後、殺菌海水を満たした水槽内に投入、9,000LXの人工光を照射し、母藻より接合子の放出を試みたがいずれも接合子の放出は見られなかった。	今回、ヒトエグサ養殖がほぼ終了する5月より、母藻採集を行ったことにより、良質の母藻を大量に確保できなかったことは問題であった。 しかし、十分に成熟した母藻を用いて接合子放出を試みたにもかかわらず接合子を採取できなかった原因は不明である。 今後、接合子の採取は母藻が十分に確保できる3月から4月に行うのが望ましい。

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	問題点及び今後の課題
少年水産教室 (タイワシ ガザミの放流)	H9. 7. 3	久松小学校 久松地先	久松小学校 小学5年生	平良市水産課 平良市栽培漁 業センター	指導漁業士の後母正司が栽培漁業と いう内容で講義を行った。子供た うこれからの造り育てる漁業とい が理解できたと思われ。また水産 源保護という事も普及できたもの とされる。	今後は宮古地区の各小学 校と平良市栽培漁業セン ターと協力して、継続し て児童による放流を続け ていく。
青壮年・女性漁 業者交換大会	H10. 1. 16	那覇市 (水産会館)	平良市漁協 婦人部		平良市漁協婦人部長友利恵子が「婦人 部で取り組む特産品作り」を発表した。	現在平行して「サメの加 工品開発」を婦人部で取 り組んでおり、これも教 年後に成果として発表し たい。
技術交流会 (シヤコガイの 養殖について)	H9. 12. 4 ～ 12. 5	石垣市	長間 浩 友利 義文	石垣市貝類生 産グループ 石垣市	伊良部町の漁業者2名が石垣市に行き シヤコガイ養殖の技術交流を行った。 石垣市は流通面で伊良部町よりかなり 進んでおり、有意義な交流会が行われ た。	2月～3月にかけて漁協 にて報告会を行う予定。
新技術定着試験 (キリンサイの 養殖試験)	H10. 1 ～ 3. 31	与那覇湾	平良市漁協 久松 究会	平良市漁協	ロープ挟み込み方式と、投石方式によ るキリンサイの増殖を奨励している。 ロープ挟み込み方式は順調に成長して いるが投石方式はこれからである。	栄養体生殖では母繁確保 が時期が10月と遅い。
都市漁村交流会 (カツオの 魚食普及)	H9. 9. 26	池間島 (池間漁民 センター)	宮古商工会 議所婦人部 ・青年部 平良市漁 協婦人部	池間漁協婦人 部	宮古商工会議所の方を池間島に案内 し、池間島の特産品であるカツオにつ いて勉強してもらった。池間の婦人部 にも異業種の方との交流ができ、流通 についての勉強になったと思われる。	今回得た知識を、実際の 流通面に役立てていく。
学習会	H10. 2. 20	平良市	漁協青壮年 部・婦人部	平良市漁協	「漁協運動と青壮年部の役割」という 内容で漁青連の棚原哲也氏が講演を行 う。	
青壮年部活動 (シヤコガイ放 流の先地視察)	H9. 8. 12 ～ 8. 13	多良間村	平良市漁協 青年部城辺 支部	多良間村 多良間水産	城辺町では平成9年度からシヤコガイ の放流を始めたが、放流方法・漁場保 全・経過観測等の技術が進んでいる多 良間村に視察研修を行った。	城辺町でシヤコガイの放 流を毎年継続して行っ ていく予定。

平成9年度漁業生産の担い手確保・育成事業進捗状況及び計画

八重山地区

課題	実施時期	実施場所	対象	協力者	経過及び成果	問題点及び今後の課題
地区推進会議	h9. 7. 23 h9. 10. 24	八重山漁協 "	八重山漁協 青壮年部 地区内漁業者 及び婦人部 赤土研究者 赤土監視員 行政関係者	八重山漁協 衛生環境研究所 赤土研究所 八重山保健所 環境保全室 水産試験場	普及事業の9年度計画及び10年要望について協議。青壮年部として赤土問題に取り組むことを確認。 八重山漁協青壮年部を主催者として講師を招聘して赤土勉強会を開催した。学習会、現地調査等の事前準備から勉強会開催に至る活動を通じて意識の向上を図ることができた。	勉強会に、農業及び事業関係の行政担当者の出席が得られなかった。一過性で終わることなく継続した取り組みにする必要がある。
漁業士育成事業	h9. 6. 10 h9. 12. 15	八重山漁協 伊野田小学校 伊野田海岸	八重山地区 指導漁業士 青年漁業士 伊野田小学校 児童 50人	普及所 瀬底、金城専技 石垣市、竹富町 水試八重山支場 伊野田小学校	八重山支部結成総会開催 ヤイトハタ幼魚の放流並びに学習会を開催。学習会において水試金城主任研究員のほか池田指導漁業士が八重山の漁業今昔について説明を行った。学習会、放流を通じて環境保全、資源保護の重要性を児童に認識させることができた。	漁業士活動は積極的な取組が行えなかった。漁業士が誇りをもって取り組める活動メニューを考える必要がある。
交流学習会	h9. 12. 16～ 17	本部、塩屋 運天原 各魚類養殖場	八重山漁協魚 類養殖研究会 石垣市	本部漁協、羽地 漁協及び各養殖 グループ 近藤、嶋間普及 員	養殖場の視察及び意見交換を行った。生産技術、流通の現状及び漁家経営等について学習し、今後の養殖事業を展開する上で参考になったと思われる。	八重山は魚類養殖への取組が県内で最も遅いため、他地区先進事例に関する情報収集に努める必要がある。
交換大会	h10. 1. 16	水産会館	与那国町漁協 玉城正太郎	与那国町 与那国町漁協	与那国の漁業について流通実態等を整理することによって、漁業者が観念的に考えていることを数字で認識する事ができたと思われる。	

平成9年度漁業生産の担い手確保・育成事業進捗状況及び計画

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協力者	経過及び成果	問題点及び今後の課題
生産者会議 魚類養殖研 究会	h9.4.26	八重山漁協	魚類養殖希望 者、石垣市、 竹富町、漁協		設立総会開催	沿整養殖場の管理方 法について協議する必 要がある。 また、魚病発生時の 即応（連絡）体制を整 える必要がある。
	h9.9.25	市種苗センタ-	研究会会員 石垣市、漁協		役員会開催 ヤイトハタ種苗の受入、本島視察、 勉強会開催、技術試験実施等今後の計 画について説明、協議	
	h9.10.2	"	"	水試八重山支場 金城主任研究員	役員会開催 ヤイトハタ種苗の受入、養殖収支見 込み等について説明、協議	
	h9.11.21	"	"	水試八重山支場	水試よりヤイトハタ種苗2,000尾搬 入、中間育成開始	
	h10.2.2	八重山漁協	"		次年度の養殖種苗要望について協議	
モズク養殖 研究会	h10.2.7	"	漁業者、市町 漁協	普及所多和田普 及員	八重振協の報告会に合わせ、県内の魚 類養殖の現状について講演会開催	設立総会開催、総会後専技により講 習会実施
	h9.9.18	八重山漁協	モズク養殖希 望者	普及所瀬底専技		



平成9年1月16日、参加者170名、団体機関14名の女性職員による大会テーマソング「漁業協同組合の歌」で大会の幕が開かれた。



青壮年の部で、最優秀賞に輝いた玉城さん



女性の部で、最優秀賞に輝いた国吉さん



名誉指導漁業士（上原さん）、指導漁業士（与座さん）の認定者
発表者の青壮年部の玉城さん、仲宗根さん
女性の部の国吉さん、友利さん

全 体 討 議

(パネルディスカッション)

テーマ 「21世紀を見据えた沖縄の水産業を考える」

本県の水産業は、各種の条件整備が進み、パヤオ漁業、ソデイカ漁業の進展、養殖業（モズク、クルマエビ等）栽培漁業の展開等明るい展望が見られるものの、水産業全体については伸び悩みの状況にある。

一方、本県の水産業を取り巻く状況は、漁業資源の減少、漁業就業者の高齢化と後継者不足、赤土等による漁場汚染輸入水産物の増加による魚価の低迷、海洋レジャーとの漁場競合等多くの問題を抱えている。

このような状況に対応し、「21世紀を見据えた沖縄の水産業」について、それぞれのパネリストの立場で、意見を述べてもらうとともに、フロアーの皆さんと意見交換しあい、21世紀に向けた足腰の強い新しい水産業を築かれんことを願っている。

1. コーディネーター

立 原 一 憲（たちはら かつのり）

琉球大学理学部助教授・農学博士

《経 歴》

1958年 東京都に生まれる

1988年9月 九州大学農学研究科博士後期課程水産学専攻終了（農学博士）

1988年10月 九州大学農学部水産増殖環境学講座助手

1989年4月 長崎県水産試験場増養殖研究所研究員

1994年1月 琉球大学理学部海洋自然科学科助教授、現職

長崎県水産試験場で水産研究職として勤務される等実践的な研究活動に専念

魚類の生活史に関する研究 学位論文は「池田湖の陸封アユの生態学的研究」水産重要種の種苗生産に関する研究等

2. パネリスト

伊野波 盛 仁 沖縄県漁業協同組合連合会専務理事

上 原 孝 喜 沖縄県農林水産部水産振興課課長補佐

山 城 健 育 沖縄県漁業協同組合長会会長

宮 里 義 高 沖縄県漁業士会会長

棚 原 哲 也 沖縄県漁協青壮年部連絡協議会委員長

富名腰 美智子 沖縄県漁協婦人部連合会会長

宮 国 泰 男 市町村代表（平良市経済部水産課課長補佐）

第2回漁業士九州ブロック研修会

1. 日 時 平成9年8月21日～22日
2. 場 所 自治会館
3. 参加者 54名

沖縄県漁業士会現況

1. 漁業士のブロック研修は全国を5つのブロックに分けて、国の補助・指導を受けて行っている事業です。
2. この事業は漁業士が地域の漁業の課題やそれに対する取り組み等について意見交換等を行う学習の場です。
3. 漁業士の九州ブロック研修は昨年度熊本県が第1回目で沖縄県が2回目になります。
4. 漁業士制度は漁業者の中で技術的に、経営的にもそして人間的にも地域のリーダーとして活躍し、今後も引き続き漁村社会の推進力になる人に漁業士として認定する立派な制度です。
5. 本県では昭和60年農林水産事務次官通達を受けて昭和61年度から漁業士の制度をスタートさせ認定をしており、平成8年度までに40名の漁業士を認定しております。
6. 他府県では青年漁業士、指導漁業士の2段階に分けて認定しているときいておりますが、沖縄県では青年漁業士、指導漁業士、名誉指導漁業士の3段階に分けて認定し、何人かは健康上の理由で辞退していますが、これまで青年漁業士15名、指導漁業士23名、名誉指導漁業士2名の計40名の漁業士が誕生しています。
7. この漁業士の組織である沖縄県漁業士会は平成元年11月に結成され、漁業経営の安定と漁村社会の活性化を図り、職業として魅力的な漁業の確立を目標に活動しています。
8. 県漁業士会は、発足以来、これまで地域の水産業団体からの助成、漁協負担金、会費等を財源として、先進地視察研修、技術交流、学習会等、自主運営をする一方、地域漁業者や普及職員の良き協力者、相談相手として貢献しています。
しかしながらややもすれば離島県というハンディもあって、結束、活動がにぶくなって来たこともあり、地域に密着した活動の必要性から、平成8年度の県漁業士会総会において支部づくりが決議され、それで同年4支部（沖縄本島北部、中南部、宮古、八重山）が結成され、活動しています。
普及事業においても、本年度は漁業士会が先進地視察研修して来たものなどをとりあげ、沖縄本島北部支部では「サヨリの2そう曳網漁業技術試験」、宮古支部では「バヤオに集まるカンパチの稚魚採捕方法及び養殖用種苗供給技術試験」を実施し、支部活動の支援を行っています。

平成 9 年 度
漁協青壮年部部長事務局会議順

日時；平成 9 年 10 月 31 日

場所；水産業改良普及所

進行；（瀬底）

1、会議内容

- 1) 開催にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・・・久貝所長
- 2) 会議の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局
- 3) 漁協青壮年部巡回移動相談を実施して・・・・・・・・瀬底専技
- 4) 漁協青壮年部活動報告（実態調査表参考）・・・・青壮年部代表
- 5) 『66式』による全体討議・・・・・・・・・・事務局

テーマ「夢のある青壮年部活動を目指すには」

- 2、全体総括と意見交換（移動相談の持ち方等）・・・・瀬底専技
 - 3、沖縄県漁業協同組合長会あいさつ・・・・・・・・・・会長山城健青
 - 4、閉 会・・・・・・・・・・・・・・・・・・金城主任専技
- ※懇親会・・・・・・・・・・・・・・・・・・糸数普及員

全体の総括

青壮年部活動の現状及び今後の方向

1、青壮年部活動の現状

- 1) 活動計画の内用が具体的かつ計画的でない。
- 2) 従って、活動方針が定まらない。
- 3) 集会も計画的に開催されてないため、集まりも悪い。
- 4) 一番大切な生活の向上を図るための生産活動課題の設定がなされてない。
- 5) 組織活動の基本である通常総会が定期的に行われてない。
- 6) 結局、何をしてよいか漠然として、方向が定まらないため、ボランティア的行事活動のみに終止してきた。そのことが、青壮年部活動を鈍化させてきた大きな要因ではないでしょうか。

2、今後の方向

- 1) 今一度、3段階による青壮年部活動を考える
 - 2) 青壮年部活動の活性化は、今後の青壮年部に課せられた大きなテーマであろう。
そのためには、次のような目標をたてて、真剣に取り組むしかない。
- ◇地域漁業の担い手としての役割を果たすために関係機関との連携ができ、自らの資質の向上のための漁業技術等の研究、学習意欲の高い青壮年を目指す。
- ◇高い漁業技術を持ち、漁業の先導者としての機能を有するために、化学的にものを考え、観察力、判断力、応用力を常に高めていこうとする意欲の高い青壮年を目指す。

◇地域の発展のためにリーダーとして、活躍できる能力を養うために地域やグループ活動に進んで参画し、積極的に活動を推進する青壮年を目指す。

◇ゆとりある漁業を展開し、ゆとりある生活を実践するために異業種との交流、仕事以外のグループ活動にも参加し、生活を楽しめる青壮年を目指す。

◇仲間や地域から信頼されるように協調性があり、心身ともに健全で人間的に魅力ある青壮年を目指す。

◇最後に、特徴ある漁業経営を展開する青壮年になるために、積極的に新しいものにチャレンジする行動目標の明確な青壮年を目指す。

※いずれにしても、漁協青壮年部を活性化する今後の方向性の一つに「漁協青壮年部の生身のコミュニケーション（会話）」を多く取り入れ、仲間と魚と会話できる能力と情報を自分のものとして、収集できる青壮年部でありたい。

※平成9年度後期以降の移動相談の方向として

◇モデル的な青壮年部を選定し、これまでに総括された問題点等踏まえて、高密度的な実践活動を展開する。

◇実践活動の成果については、部長事務局会議か漁青連の総会等で紹介し、今後の青壮年部活動の参考にしたい。

平成8年度・平成9年度前期における青壮年部移動相談実施状況

青壮年部名	代表者名	実施時期	実施状況
八重山 漁協青壮年部	仲田森浩 (部員数57名)	平成8年 8月15日	■当日理事会等と重なり部員間の討議が十分にできなかった。仲田部長によると移動相談前日に役員と部員の代表を集めて、課題設定に向けて長時間に及ぶ議論がなされたようだ。その後、内容について知らされてなく、再度の移動相談も開催されてない。 ■掛け持ちの移動相談は問題があり、今後、日程等調整時に十分検討する必要がある。参加者7名
伊江 漁協青壮年部	上間 智 (部員数20名)	平成8年 11月21日	■当日は、漁協関係者、村役場、指導漁業士等の参加の元で開催された。青壮年部も16名の参加があり有意義な移動相談であった。 ■当青壮年部は、世代交替が極めて順調にいつているようで、後継者もしっかりと定着している。全体的な感想は、世代交替時の引継が十分でなかったのか「青壮年部活動」の内用等熟知していない部分を感じられた。今後、学習会(各県の事例参考)等回数を重ねる必要がある。
沖縄市 漁協青壮年部	小嶺 仁 (部員数15名)	平成8年 11月20日	■当日は、集まりが大変悪く1時間遅れで開催された。青壮年部6名の参加の元で、8・9年度相談メニューについて、説明を行う。当青壮年部は、計画作りの段階と言うよりも青壮年婦人部との共同組織の是非が問われている状況にあり、しばらくは組織の再編等様子を見る必要がある。
石川市 漁協青壮年部	伊波盛光 (部員数20名)	平成8年 12月6日	■青壮年部12名、漁協関係者、市役所等の参加の元で開催された。当青壮年部は休止状態にあり、組織の見直しが求められている。 ■出席者全員組織の必要性を感じているものの旗振りがいないことと、事務局が機能していないこともあって、今後、現役員を中心に結成準備会を策定させ、その、旗振りを参事が担うことになった。
久米島 漁協青壮年部	与座嘉雄 (部員数38名)	平成8年 12月14日	■青壮年部25名、漁協関係者等の参加の元で開催予定であったが、当日、ソフトボール大会、暮れの忘年会とスケジュールの調整が出来ず、結局中途半端な移動相談に終わった。 ■その後、再度開催できず、掛け持ち実施の場合の持ち方等事前に詰める必要がある。
那覇市沿岸 漁協青壮年部	名嘉村彰 (部員数20名)	平成9年 2月10日	■青壮年部9名、漁協関係者等の参加のもと、予定通り開催された。モズク養殖を試みるための種苗保存の実践活動(途中中断・?)潜水器漁業一辺倒からの転換のため魚類養殖及び放流の実践等活動課題に取り組んでいる。今後、さらなる組織の強化を図りつつ永続的な活動の展開を願う。 ■当青壮年部は、平成7年度に組織の再編を図り、名嘉村部長の元再スタートした。

青壮年部名	代 表 者 名	実 施 時 期	実 施 状 況
伊良部町 漁協青壮年部	伊地博喜 (部員数12名)	平成9年 5月29日	■青壮年部8名、漁協関係者、町役場、漁業士、宮古支庁普及員参加の元で開催された。 ■平成8年度以降組織活動の見直しが行われつつある。異業種からの参入によるリーダーが育ちつつある。さらに、支庁普及員との共同作業による、活動内用等検討のためのアンケート調査を予定している。前回、移動相談で問題提起された改善策の一環である。改善策等期待したい。
勝連 漁協青壮年部	新屋光彦 (部員数22名)	平成9年 7月8日	■青壮年部15名、漁協関係者の参加の元開催された。活動内用はこれまで通りで、特に変わったことはない。当日は活動計画内用等について、具体的な話し合いは持たれず、漁船漁業・増養殖の紹介に終わった。 ■今後、学習会等通じて「青壮年部活動の実態・必要性について」部員間で意見交換を図る必要がある。ただ、全体的に言えることだが、この場合、部員が本気になって、やる気を出さないと建設的な話し合いが進展しない。
知念村 漁協青壮年部	内間待仁 (部員数25名)	平成9年 8月28日	■地もと開催ができず、普及所に部長、副部長、事務局（漁協職員）に来て貰い意見交換等行う。 ■当地区は、久高島と本島側の組合員で構成されている青壮年部である。 ■一同に会して行う、会議の招集はなかなか難しいようだ。支部組織を置くなど運営面で活動の改善が出来ないか話し合う必要がある。平成9年度の移動相談内用について説明を行う。
港川 漁協青壮年部	玉城繁博 (部員数22名)		■部員間の調整が図れず未開催 開催方法等（何故集まらないのか、どうすれば集まるか）検討する必要がある。
糸満 漁協青壮年部	上原智哲 (部員数20名)		■移動相談が開かれないうえに状況が4～5年続いている。移動相談は、青壮年部に仕事を押しつけるとか無理難題を与えるようなことをするために、巡回しているわけではない。組織結成後の活動の支援、お手伝いが出来ないか、手伝えとすれば何が一番いい方法なのかを部員と相談しながら活動しやすい方法を皆んなで考えようと言う目的で開催しているので、楽しく、気軽な気持ちで参加してほしい。
恩納村 漁協青壮年部	銘苅宗和 (部員数18名)		■数年前から活動停止 理由は分からないが、しばらくは休部したいとのことである。